

広がるか大学のインターネット授業

同大・京都産大で全国初の試み

学生と教員が直接顔を会わず、インターネットで授業を行う全国初の試みが、同志社大や京都産大で行われている。学生の反応も上々といい、今秋からは一部の授業が大学コンソーシアム京都の単位互換科目として、社会人や他大学の学生にも開放された。今後、広がりを見せるのか、ネット授業の現場を追った。



インターネット授業について話し合う小原助教授(手前)と宮崎教授(京都市上京区・同志社大)

いる。

☆☆☆☆☆☆☆☆
受講学生は肯定的

情報処理の授業で取り入れた経済学部の宮崎教授は受講学生にアンケートを実施。画質・音質が悪い「映像をスムーズに再生できない」といった否定的な意見もあったが、ほとんどは「反復学習ができる」「授業に集中できる」など肯定的な意見だった。宮崎教授は「授業内容での不満は特になく、有効な教授法の一つとして、かなり期待できると自信を深めている。

☆☆☆☆☆☆☆☆
今後の検証待たれる

時間や場所に制約を受けず、一定の学習効果も上がっていることから、各大学で導入が進んでいると予想されている。ただ、こういった教科が有効で、一つの授業に適切な学生数はどの程度か、などは未知数。今後検証が待たれる。

時・所を問わず学習効果も

文部科学省は今春から大学設置基準の要件を緩和し、インターネット授業を正規の授業として認めめた。対面の授業と同様の教育効果が得られることを条件とし、一般の大学で卒業に必要な百二十四単位のうち、最大六十単位まで認めるとしている。

☆☆☆☆☆☆☆☆
授業のビデオ配信

同志社大は、今年の春学期から神学部の小原克博助教と経済学部の宮崎耕教授が、インターネット授業を始めた。どちら

も、対面授業はまった

らも、対面授業はまった

今年十月までに試験を終わらせた。小原助教授は「インターネットでも予想以上に活発な議論が展開された。学生の多くはメール感覚ながらも、きちんとした書式でかつ優れた内容のレポートを送信してきた」と、半年講、関心の高さを見せて

宮下教授からは添削した

宮下教授からは添削した